

① 学習成果（今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど）

今回の海外学習で改めて気づきを得られた点は、伝えること、発信することの大切さである。私は現在、社会人経験者として、大学院においてビジネスリーダーシップを学んでいるため、自身の経験を若い学生に伝え、発信していくことを、常に心がけている。この点、今回、現地学生との話の中で、学生から、年長者としての私のアドバイスを求められたケースもあった。このことは、日本と海外を線引きするのではなく、一人の人間として、どれだけのことを伝え、発信して、相手のことをサポートできるかという基本的な事柄を改めて認識させてくれた。

海外留学は、自分の感度のアンテナを広げた分だけ、学びの機会を広げることができる。今後も可能な限り、海外留学に参加していきたい。

② 海外での経験

海外の大学において短期間学習する経験は、今回が3回目である。

今回のプログラムの特徴は、2週間という短い期間であったが、その間、三つの大学（含む研究機関）で学ぶ機会があった点にある。通常、この期間であれば、一つの受け入れ先のみでの学習となることが多いが、今回、受け入れ先が多かったことは、その分、交流機会の拡大につながったといえる。

現地勤務、旅行および短期留学等、私は幾度かの海外経験を有している。今回、現地の学生と授業以外の時間も広く交流を行い、多くの場所に出向いたことで、現地の人々の生活感覚を感じ取ることができ、またそれが他の国と比べて、どのような位置にあるかという点も認識することができた。

③ プログラム内容

プログラムは、現地学生の日本語授業への参加、ベトナム語の学習およびベトナムの文化・歴史等の学習（世界遺産等の実地見学を含む）の三つに大別される。

これらのうち中心は、現地学生の日本語授業への参加であった。日本語授業も科目はいくつかに分かれ、日本語文法、作文および通訳等の授業に参加した。授業の内容は、日本の学生にとって参加的なスタイルとなるよう留意され、加えて現地学生との交流も幅広く組み込まれる等、日越双方の学生がメリットを得られるよう工夫されていた。ベトナム語学習の授業は計3回であったが、ベトナム語の初歩はカバーできた。また、ベトナム語の文化・歴史等の学習については、大学のみならず、国の研究機関である社会科学院での講義も受講でき、同国の問題意識（貧富の差、高齢化対応等）もうかがい知ることができ有意義であった。

プログラムにはこれら以外に、現地学生に対する発表および質疑応答の機会が設けられていた。発表に関する質疑応答では、日越両国の学生から積極的な質疑、意見交換が行われ実りある時間となった。

④ 進路への影響

私自身、現時点で、卒業後の進路を明確に決定していない。ただ、自身でビジネスを起こすというイメージは抱いている。

現代はICT化の進展によって、ビジネス面でも国内・海外の垣根が一段と低くなってきている。とすれば、今回、海外マーケットの中でも発展の余地が大きいベトナムの事情を知ることができたことは、自身の将来にとって、価値のあることと評価している。

以上